



いっしょに検討してくれる 大人を探しています！

子どもと大人では、同じものを見ても感じ方が異なっていたり、大人が疑問に思わなくなってしまったことに対して、鋭い感受性や柔軟な発想で課題に気づくなどの「**強み**」を持っています。

川崎市子ども会議では、子どもと大人がそれぞれの「持ち味」を活かしながら、よりよい川崎市になるように、**パートナー**として、一緒に検討や活動をしていただける大人を探しています。

子どもの声をスタートラインに、社会全体で受け止めて、よりよい川崎市を作っていく活動に、ぜひ御協力をお願いします。

10 人や国の不平等
をなくそう



「成長、発達」の特別な成長過程にある子どもの権利が、自然と大切にされるような、社会の実現に向けて、子どもの意見を尊重する取組を進めていきます。

【ターゲット10-2】

2030年までに、**年齢**、性別、障がい、人種、民族、生まれ、宗教、経済状態などにかかわらず、すべての人が、能力を高め、**社会的**、経済的、政治的**に取り残されない**ようにすすめる。

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



行政はもちろん、地域で活動する団体や高いノウハウを持つ企業と子どもたちがパートナーシップを発揮して、声の実現に向けて活動していきます。

【ターゲット17-17】

さまざまなパートナーシップの経験などをもとにして、**効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップ**をすすめる。

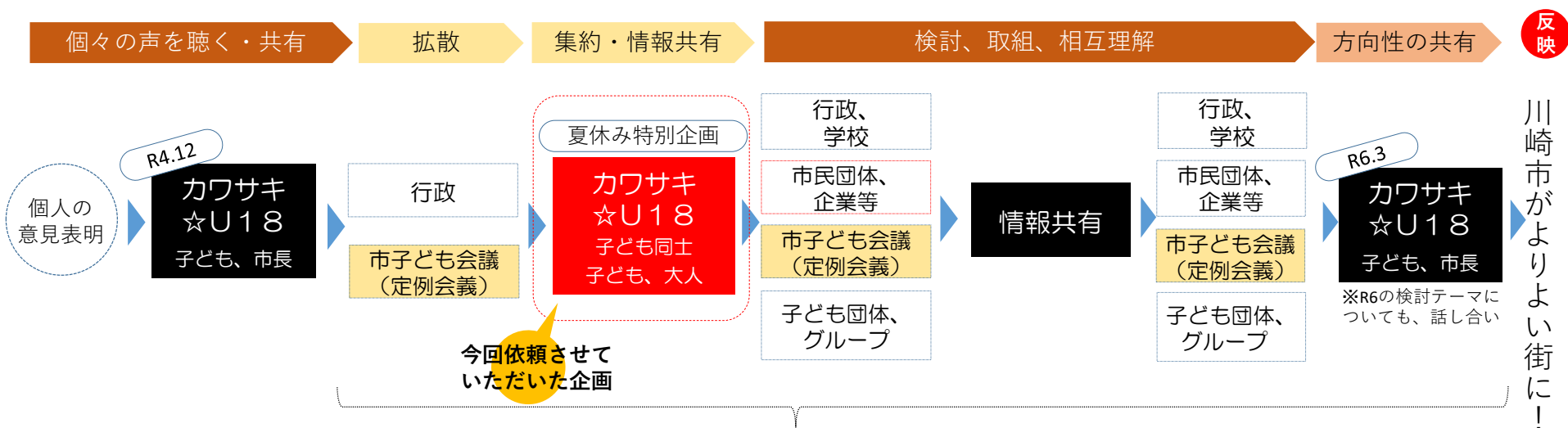
1 川崎市子ども会議とは

「川崎市子どもの権利に関する条例」に定められた取組で、川崎市政について、現在の社会の一員であり大人とともに社会を構成するパートナーとして、子どもの意見を聞くために市長が開催している会議です。

令和4年度から、これまでの取組をさらに拡大し、より幅広い子どもの声を、もっとしっかり受け止めていくためのしくみとして、様々な手法を組み合わせた一連の流れで取り組んでいます。

今年度は、**「デジタル技術でかなえるミライの学校スタイル」**をテーマに検討しています。

一連の流れ



(令和5年度の検討の流れ)

R5 2～6月	7・8月	9～11月	12～1月	R6 1・2月	R6 3月
【定例会議で検討】 【行政で検討】	【カワサキ☆U18】 子ども同士 【カワサキ☆U18】 子どもと大人	【定例会議で検討】 【各団体で検討】	【情報共有】 各団体で検討した情報 などを、広く共有	【定例会議で検討】 【各団体で検討】	【カワサキ☆U18】 子どもと市長

2 カワサキ☆U18 夏休み特別企画 企画詳細

夏休み限定で参加者を募集する2回連続企画。

初回は、子ども同士で話し合い、子どもの意見として、アイデアや意見をまとめる。

第2回は、初回に話し合った内容について、大人の想いを伝えたり、情報を提供したりしながら、子どもと大人が話し合い、異なる立場の相互理解を深めながら、実現に向けて情報の共有を図る。



今回依頼させていただいた企画

テーマ：デジタル技術でかなえるミライの学校スタイル

会場：川崎市役所第4庁舎 2階 ホール

参加人数：60人 ※事前申込制

対象：市内在住・在学の小4～18才

その他：後日、YouTubeで配信予定

第1回

日時：7月23日(日)
14:00～16:30

参加者：子どものみ

内容：子どもたちが活用アイデアや改善案を、話し合い。
また、第2回に向けて、大人と意見交換してみたいことを整理。

第2回

日時：8月22日(火)
14:00～16:30

参加者：子どもと大人

内容：子どもからの質問やアイデアに対して、大人の持っている情報の共有。
また、子どもの声の実現や課題解決に向けて、子どもと大人と一緒に検討を行う。

3 具体的な依頼内容

A 子どもとの意見交換、情報提供

「カワサキ☆U18」(8/22)に参加して、事前に子どもたちが考えた学校でのデジタル技術の活用に関するアイデアや意見に対して、大人の立場として感じた気づきや意見などを話し合っていたきたいです。

また、子どもたちの検討に役立つ情報提供などをしていただきたいです。

【話し合いのイメージ】

「ディベート」ではなく、「ディスカッション」。
子どものアイデアに対して、実現に向けた課題整理や大人が気づかなかった重要な視点の言語化、大人のホンネを伝えるなど、相互理解を図りながら、アイデアの実現に向けて論点を整理していく。

【情報提供のイメージ】

「答えを教える」ではなく、「参考情報を共有する」。
子どものアイデアに対して、すでに行われている取組の紹介や、参考になりそうな実践事例、実現する際にハードルになっていること、最新の技術紹介など、今後、一緒に検討していく際に参考になる情報を共有する。

B 子どもの声の実現に向けた活動

子どもとの意見交換後に、子どもの声を受けて、団体や企業が普段行っている取組に取り入れられそうな観点の整理や、具体的に実施できそうな取組があれば取り組んでいただき、行政等を通じて、子どもたちにフィードバックしていただきたいです。

【検討のイメージ例】

- ・「ゲームで交流したい」という声を受けて、来年の地域イベントの中で、eスポーツ大会ができないか、検討。
- ・「提出物や宿題のスケジュールを管理したい」という声を受けて、スケジュールアプリのバージョンアップに着手。

【取組のイメージ例】

- ・「プログラミング体験をしたい」という声を受けて、学校では実現が難しい「本格的なプログラミング体験講座」を、地域団体で開催。
- ・「オンラインで交流したい」という声を受けて、オンライン職場見学会を企業が実施。

4 ぜひ協力いただきたい企業や団体

次の4つのいずれかの内容を紹介いただける企業や団体に、特に協力をお願いしたいです。

ICT技術

子どもたちからの「こんなことができればいいのに」というアイデアに対して、「こんな機能やアプリがあるよ」という情報共有や、「今のICT業界ではこんなことが注目されているよ」というような情報提供をいただきたいです。

子ども対象の社会教育活動

貴重な体験や、安心して話ができる居場所を子どもたちに提供している団体に参加いただき、子どもの声の実現や、それぞれの場所で聞きとった子どもの声を共有していただきたいです。

**パートナーとして
子どもと関わり、
子どもの権利を
大切に考えている
企業や団体**

子どもたちへの情報提供として、企業や団体でデジタル化を進めてみたら、「こんなメリットやデメリットがあったよ」というお話しの紹介。

学校生活にも活用できる事例の紹介などをしていただきたいです。

企業や団体活動のデジタル化

子どもたちの意見や声に対して、大人の立場から見た意見を紹介し、子どもと大人が、お互いの想いを知ったり、「気づき」を得たりできるような話し合いをしていただきたいです。

保護者や大人の視点

個別学習

先生の負担をかけずに、得意・不得意にあわせた個別学習ができないか？



部活動

動画撮影で客観視したり、活動内容を共有したり、効果的な練習方法を共有したりできないか？



情報整理

部活や宿題などのスケジュールをまとめて管理する方法はないか？



【視点1】
新たな
アイデア

情報共有

図書館の本のレビューなど情報発信と共有ができるような活用ができないか？



規制緩和

閲覧できないサイトなどについて、子どももいっしょに考えられないか？

授業内容

デジタルの良い点をもっと活かした授業をいっしょに作れないか？

【視点2】
今の使い方の
改善案

ルールの見直し

疑問に思う使い方やルールなどについて、大人と話し合っ、見直しできないか？

スキルアップ

効果的な使い方やプログラミング技術を学ぶことができないか？